

動物実験に関する検証結果報告書

高崎健康福祉大学

動物実験に関する外部検証事業

(公益社団法人日本実験動物学会)

2025年2月

2025年2月7日

高崎健康福祉大学  
学長 石田朋靖 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価報告書に対する検証結果を通知します。

公益社団法人日本実験動物学会  
理事長 小倉淳郎

対象機関：高崎健康福祉大学  
申請年月日：2024年 5月 30日  
訪問調査年月日：2024年 11月 26日  
調査員：若井 淳、國田 智、藤倉大輔

#### 検証の総評

高崎健康福祉大学は2001年に開学し、健康福祉学部、保健医療学部、薬学部、人間発達学部、農学部の5学部8学科が設置されている。5学部のうち、健康福祉学部、保健医療学部、薬学部、農学部の4学部において動物実験が実施されており、健康福祉学部、薬学部、農学部が飼養保管施設を設置している。学長の責任の下で、「高崎健康福祉大学動物実験等の実施に関する規程（以下「動物実験規程」という。）」をはじめとする規程類が定められるとともに、「高崎健康福祉大学動物実験委員会」が設置され、文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下「基本指針」という。）」と環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下「飼養保管基準」という。）」に適合した動物実験の実施体制が整備されている。また、全動物実験実施者に対する毎年度の教育訓練や自己点検・評価及びその情報公開など、概ね適正な実施状況にある。特に優れた取組みとして、各飼養保管施設の実験動物管理者と各学部から選出された委員による施設の使用状況及び動物の状態の定期的な確認が行われている点があげられる。加えて、動物実験支援事業を立ち上げ、当該大学における動物実験の基盤となり、技術的な支援及び各施設の一元管理を行う中核組織の設立を目指している点についても高く評価できる。今後も、飼養保管施設のさらなる整備や集約化を進め、関連マニュアル等の内容についても一層の充実を図るとともに、動物実験委員会と遺伝子組換え実験安全

委員会が連携し、適正な動物実験と適切な実験動物の飼養保管の実施に引き続き努められたい。

## 検証結果

### I. 規程及び体制等の整備状況

#### 1. 機関内規程

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程を定めている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 動物実験規程は基本指針及び飼養保管基準に適合している。前回の検証で指摘された規程中の用語や管理者等の役割について整理されている。したがって、機関内規程について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程が定められていない。
4) 改善に向けた意見 特になし。

#### 2. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検・評価の妥当性 学長は動物実験委員会を設置しており、基本指針にある3要件の委員を含んでいる。規程内にも委員会の構成や役割について明記されている。したがって、動物実験委員会について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は設置されているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は設置されていない。
4) 改善に向けた意見 特になし。

### 3. 動物実験の実施体制

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。</li><li><input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。</li><li><input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制を定めていない。</li></ul>
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>「動物実験計画書」「動物実験計画変更申請書」「動物実験実施報告書」「飼養保管施設設置承認申請書」「動物実験証明書」「飼養保管施設設置承認申請書」「実験室設置承認申請書」「施設等（飼養保管施設・動物実験室）廃止届」など、動物実験の実施に必要な各種様式が整備されている。動物実験計画書は5年間有効であるが、「動物実験継続確認書」及び「動物実験修正計画書（継続）」を提出することで、毎年度末にそのまま継続する、変更して継続する、あるいは終了するかを定期的に進捗確認を行う仕組みが構築されている。したがって、動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。</li><li><input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。</li><li><input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められていない。</li></ul>
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>動物実験計画書の様式に、搬入動物の微生物学的品質の記入欄、使用動物数の算出根拠の記入欄を設けることを検討されたい。</p>

### 4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。</li><li><input type="checkbox"/> 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。</li><li><input type="checkbox"/> 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。</li></ul>
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>安全管理に注意を要する動物実験として、遺伝子組換え動物を用いる実験及び有害化学物質の投与動物実験が実施されている。遺伝子組換え動物を用いる実験については、「遺伝子組換え安全管理規程」や担当委員会が整備されており、遺伝子組換え実験安全委員会の承認後に動物実験計画の審査が行われる体制になっている。また、有害化学物質の投与動物実験については、前回の検証で指摘のあった安全管理上のルールや手続きを明文化するために、「発がん物質等危険物質を用いた動物実験に関するガイドライン」の案を作成中であるが、調査時点では運用開始に至っていなかった。麻酔薬として麻薬を使用する場合には、麻薬研究者免許証の写しが実験計画書に添付されている。動物実験計画書には遺伝子組換え実験の承認番号や承認期間の記入欄がな</p>

く、動物実験委員会と遺伝子組換え実験安全委員会等との情報共有体制が十分に確認できなかった。したがって、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

4) 改善に向けた意見

「発がん物質等危険物質を用いた動物実験に関するガイドライン」の早期の運用開始に努められたい。動物実験計画書に遺伝子組換え実験安全委員会の承認番号記入欄及び麻薬研究者免許証の登録番号等を記入する欄を設け、安全管理にかかわる情報が計画書の様式中で容易に確認できるよう工夫されたい。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

飼養保管施設の利用方法や飼育管理方法、そして災害発生時の対応マニュアルとして「高崎健康福祉大学（薬学部・健康福祉学部・農学部）動物実験施設利用要綱及び緊急時マニュアル」が整備されている。前回の検証で指摘のあった飼養保管施設の設置・承認の手続きや緊急時連絡先の掲示等も改善されている。したがって、実験動物の飼養保管の体制について、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」との自己点検・評価の結果であるが、「基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。」とする。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

各施設の利用者向けマニュアル及び業務マニュアルにおいて、緊急時の他、平時の逸走動物への対応についても整理し記載されたい。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

高崎健康福祉大学は 2018 年度に外部検証を受検しており、今回は 2 回目の外部検証である。前回の外部検証後に農学部が設立され、それに伴い飼養保管施設も 1 か所追加された。コンベンショナル飼育室を SPF 飼育室に変更するなど、用途に応じて飼育環境の改善を積極的に行っており、また、学内の動物実験を支援するために、高崎健康福祉大学動物実験支援事業を立ち上げ、凍結胚からの個体復元など発生工学技術の提供を開始している点については高く評価できる。一方、前回検証での指摘事項に対して、検討や対応が必ずしも十分でない点も認められた。

## II. 実施状況

### 1. 動物実験委員会の活動状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <p><input type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>「動物実験計画書」の審査について、各委員が適切な審査を行っていることが審査結果記録から確認できた。委員会も必要に応じて対面及び持ち回り開催されており、審議内容が議事録として保管されている。委員会による飼養保管施設等の視察を定期的に行い、その記録も保管されている点は高く評価できる。したがって、動物実験委員会の活動状況について、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」という自己点検・評価の結果であるが、「基本指針に適合し、適正に機能している。」とする。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。</p> <p><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>特になし。</p>

### 2. 動物実験の実施状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>「動物実験実施状況報告書」及び「動物実験の自己点検票」が100%提出されている。また、前回の検証で指摘のあった、結果の概要、計画との相違の有無を動物実験実施報告書に追加すべきとの指摘については改善されている。したがって、動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>動物実験実施報告書及び年度ごとに提出されている動物実験継続確認書に、委員会意見の記入</p>

欄並びに使用動物種と使用匹数の記入欄の追加を検討されたい。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験を行っていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

安全管理に注意を要する動物実験として、遺伝子組換え動物の飼育・実験と有害化学物質の投与実験が行われている。いずれも事故等の発生はないが、管理区域の設定範囲や各室の利用目的、飼養可能な動物について、動物実験委員会と遺伝子組換え実験安全委員会や実験動物管理者等の間で情報共有が十分に行われていない。したがって、安全管理に注意を要する動物実験の実施状況について、「基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。」との自己点検・評価の結果であるが、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」とする。

3) 検証の結果

- 該当する動物実験が適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験は行われていない。

4) 改善に向けた意見

管理区域の設定範囲、表示、逸走防止措置等の適確性について、動物実験委員会、遺伝子組換え実験安全委員会、実験動物管理者等の間で連携して確認し、確実な把握と必要な対応を早急に進められたい。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

マウス及びラットのみが実験動物として使用されており、適切な環境で衛生的に飼養保管されている。健康状態は、各飼養保管施設の実験動物管理者による最低月1回の見回りと SPF 飼育室においては半年に1回の微生物モニタリングにより確認されている。「飼育ケージ数記録簿」も設置されている。飼育室の温度・湿度等の環境測定、実験動物の飼育状況の記録、廃棄物処理等

は適切に行われているが、マニュアルへの明記に不足が見られる。利用要綱にケージラベルによる識別方法が定められているが、表示方法や記載項目が徹底されておらず、担当者以外による把握が困難な状況も一部で確認された。したがって、実験動物の飼養保管状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

飼育室の環境条件、健康管理の方法、逸走防止措置と逸走時の対応、施設・設備の保守点検等について、飼養保管マニュアルでの記載の充実を検討されたい。利用要綱については、実状に沿って古い記述の修正をされたい。コンベンショナル飼育室においても、長期的な飼育・繁殖を行っている場合や一般環境に近接している場合は、定期的な微生物モニタリングの実施を検討されたい。また、利用要綱に従ったケージ識別方法の実施を徹底されたい。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

飼養保管施設及び実験室は整理整頓されている。空調の保守点検の記録も保管されており、関係者以外が立ち入らないように施錠され、動物実験委員会による定期的な視察も行われている。前回の外部検証で指摘のあったセキュリティ対策や地震対策の改善も確認された。したがって、施設等の維持管理の状況について、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」との自己点検・評価の結果であるが、「基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。」とする。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

利用者による定期的な清掃の実施や入室時の温度や湿度の記録を全施設でマニュアルに明文化し周知徹底されたい。

6. 教育訓練の実施状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。</li><li><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</li><li><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</li></ul>
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>規程に定められた内容を満たした教育訓練を毎年度実施しており、開催記録及び受講記録も適切に保管されている。また、実験動物管理者に対する教育訓練も、学外の研修会を活用して行われており、その受講記録も保管されている。したがって、教育訓練の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。</li><li><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</li><li><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</li></ul>
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>教育訓練において安楽死に関する内容の充実を検討されたい。</p>

7. 自己点検・評価、情報公開

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。</li><li><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</li><li><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</li></ul>
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>動物実験委員会委員で構成される自己点検評価委員会を組織し、自己点検・評価を毎年度実施している。しかしながら、国立大学法人動物実験施設協議会及び公私立大学実験動物施設協議会が要請する情報公開項目の一部が公開されておらず、公開情報が最新版でないものも認められる。したがって、自己点検・評価、情報公開について、「基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。」との自己点検・評価の結果であるが、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」とする。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</li><li><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</li></ul>
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>ウェブページにおける情報公開に主要な飼養保管施設の名称及び飼養保管施設の数、動物実験</p>

委員会委員の所属部局並びに専門分野を追加することを検討されたい。また、検証結果報告書を含む公開情報を適切に更新されたい。

## 8. その他

（動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果）

動物実験支援センターの設置や施設の整備計画など、動物実験の実施体制の再構築に向けた積極的な姿勢が伺える。将来的に予想される、さらに高度で多様な動物実験の実施拡大にあわせ、基盤となる管理・運用体制の整備が重要となることから、今後も学長の責任の下、適正な動物実験の実施に努められたい。